

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第2学年 | 国語 | 91人 | 社会 | 91人 | 数学 | 92人 |
| | 理科 | 92人 | 英語 | 92人 | | |

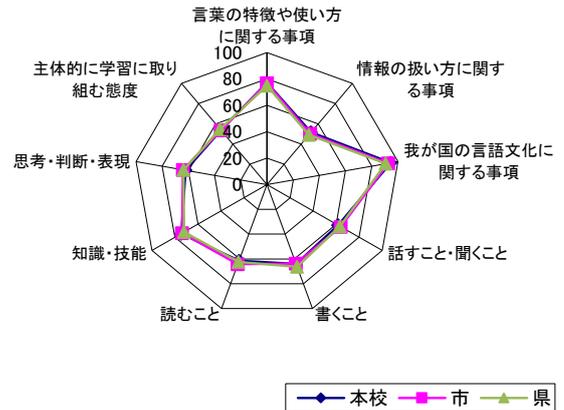
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 77.2 | 76.9 | 74.9 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 51.6 | 50.3 | 49.2 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 94.5 | 92.6 | 90.7 |
| | 話すこと・聞くこと | 61.7 | 64.2 | 63.4 |
| | 書くこと | 64.0 | 63.7 | 66.4 |
| | 読むこと | 61.5 | 64.2 | 62.5 |
| 観点 | 知識・技能 | 74.4 | 73.7 | 71.9 |
| | 思考・判断・表現 | 62.2 | 64.1 | 63.8 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 53.8 | 53.8 | 54.8 |



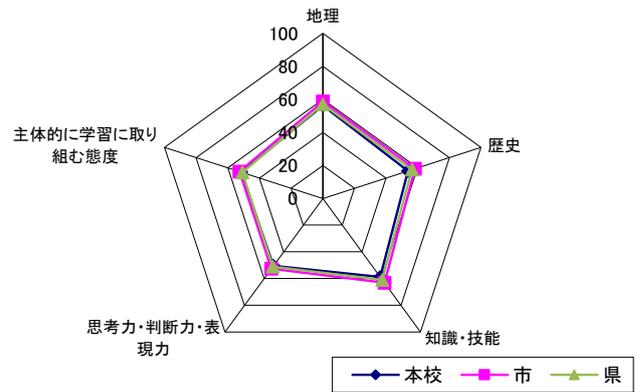
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | この領域は、県の正答率をやや上回っている。 ○第1学年までに学習した漢字の読み書きは、県平均とおおむね同じくらいの正答率である。 ○単語や文節どうしの関係や、言葉についての知識は身に付いている。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字や文法の確認テストを取り入れている成果であるので、今後も丁寧に指導していく。 ・文法については、第2年年の学習内容を絡めて復習する時間を設けて、充実を図る。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | この領域は県の正答率を、やや上回っている。 ○情報と情報との関係に気を付けて、内容を解釈することができる。 ○情報どうしの関係を理解し、自分の考えが明確になるように、構成を考えることができる。 | ・相手の発言を聞き、その内容に対して自分の意見を述べる「話し合い活動」を取り入れた成果なので、引き続き丁寧にやっていく。 ・話し合い活動をやったあと、振り返りの時間を充実させ、今後どのように工夫していけばよいのかを、個人で考えさせる機会を多く設ける。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | この領域は、県の正答率をやや上回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことについて、理解している。 | ・仮名遣いを直すことはできているので、古典の内容の読取り等にも、授業内容を充実させていく。 |
| 話すこと・聞くこと | この領域は県の正答率を、やや下回っている。 ○話題や展開を捉えながら、互いの発言を結び付けて自分の考えをまとめることができる。 ●必要に応じて、話の内容を捉えたり、自分の考えの根拠を明確に伝える構成を、工夫するところまで至っていない。 | ・話の中で、自分の考えの根拠となる内容を捉え、構成に生かし、工夫させる授業内容を取り入れる。 ・聞き取りテストを実施する前に、プレテストを実施し、前述の内容を確認するようにする。 |
| 書くこと | この領域は、県の正答率をやや下回っている。 ●条件を理解し、読み取った内容を活用して、自分の考えを書く力がやや低い。 | ・書くことの単元を指導する際に、以下のことに重点を置いて指導する。 ①条件②答え方(論の筋・構成の工夫)③自分の考えの書き方④記述の仕方(論理的な書き方) |
| 読むこと | この領域は県の正答率とおおむね同じである。 ○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ●叙述をもとに、文章の内容や構成について捉える力がやや低めである。 | ・説明的文章では、段落の構成を捉える学習内容を丁寧にやる。特に、文頭の接続語と例を挙げる段落に注目させる。 ・要旨を捉え、要約文をまとめる学習内容を充実させる。 |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 地理 | 56.3 | 58.7 | 57.0 |
| | 歴史 | 53.9 | 58.3 | 56.4 |
| 観点 | 知識・技能 | 58.8 | 63.1 | 61.0 |
| | 思考力・判断力・表現力 | 50.5 | 52.5 | 51.1 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 51.5 | 52.6 | 50.8 |



★指導の工夫と改善

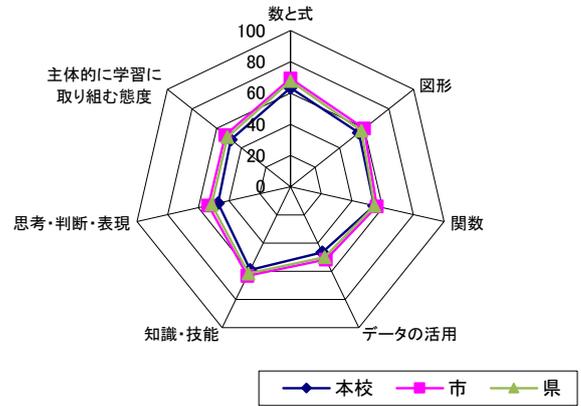
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 地理 | <p>○日本の姿について、県の正答率を9ポイント上回っており、日本の国土の位置や領域などについて理解している。</p> <p>また、観点別に見ると、主体的に学習に取り組む態度に関する問題や活用問題の正答率が県の正答率を上回っている。</p> <p>●世界各地の人々の生活と環境について、県の正答率を37.1ポイント下回り、それぞれの地域的特色を整理する必要がある。</p> <p>●世界の諸地域について、県の正答率を17.7ポイント下回っている。複数の資料をもとに考察する力をつけていく必要がある。また、観点別に見ると、基礎問題や思考・判断・表現の問題の正答率が県の正答率を下回っている。</p> | <p>・世界の地域構成の学習においては、タブレットなどを活用し、地図に対する生徒の興味・関心を高め、資料を読み取る技能の習得を図る。さらに、その技能を生かして考えを深め、思考力につなげていけるような授業を行う。</p> <p>・世界各地の人々の生活と環境の学習においては、授業の振り返りや小テストなどを用いて、基本的な用語の確認を行い、知識の定着を図る。□</p> |
| 歴史 | <p>○中世の日本について、県の正答率を3.4ポイント下回っているものの承久の乱の内容や鎌倉幕府の政治に元寇が与えた影響について、理解している。</p> <p>●縄文時代～古墳時代については、県の正答率を44.7ポイント下回っている。特に、この頃の日本の様子を、中国や朝鮮半島の国と関連付けて、考察する力が足りていない。</p> <p>●飛鳥時代～平安時代については、県の正答率を12.3ポイント下回っている。基本の知識が定着していない。</p> | <p>・縄文時代～古墳時代の学習においては、この時代の日本の様子についての理解を深めるために、資料と結び付けながら、どのような時代背景があったのかなどのお話合い活動を取り入れる。</p> <p>・飛鳥時代～平安時代の学習においては、用語の確認やワークに取り組むことで、基本的な知識の習得をめざす。</p> <p>・中世の日本の学習においては、資料を多面的・多角的に読み取るためのポイントなどをしっかりと指導し、事象による影響を考察させる。□</p> |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と式 | 63.3 | 69.3 | 67.7 |
| | 図形 | 55.4 | 59.8 | 57.7 |
| | 関数 | 54.5 | 56.2 | 54.7 |
| | データの活用 | 46.6 | 51.6 | 49.9 |
| 観点 | 知識・技能 | 59.0 | 63.2 | 61.5 |
| | 思考・判断・表現 | 47.2 | 53.5 | 51.4 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 48.5 | 53.0 | 51.2 |



★指導の工夫と改善

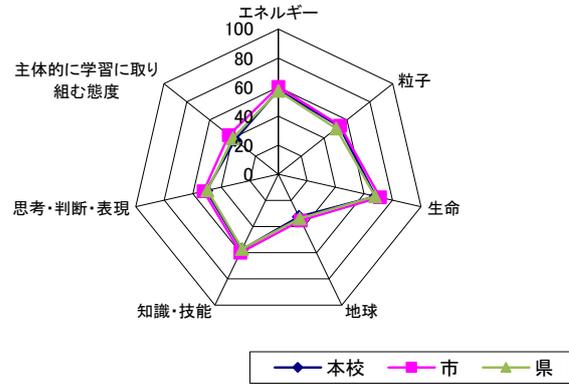
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|---|
| 数と式 | <p>平均正答率が県の正答率より4.3ポイント下回っている。</p> <p>○正負の数の四則計算や、1次方程式を解くという項目では、正答率が80%を超えている。</p> <p>●「1次式の減法」「数量を不等式で表す」の項目等、文字式を用いて説明する問題の正答率が低い。</p> | <p>・文字式の意味、文字を使うことの有用性を丁寧に伝える。</p> <p>・基礎的な計算力を身につけるため、反復学習を行う。</p> <p>・自分の考えの過程を説明する発問をする。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率が県の正答率より2.3ポイント下回っている。</p> <p>○「球の表面積を求める」の項目で市の平均を6.8ポイント上回っている。</p> <p>●空間図形、特に円柱と円錐の体積の関係について市の平均を下回っている。</p> | <p>・今後もICTや具体物を活用し、視覚的に学ぶ環境を整える。</p> <p>・図形のもつ意味や性質を丁寧に伝える。</p> |
| 関数 | <p>平均正答率が県の正答率を0.2ポイント下回っている。</p> <p>○比例・反比例における変数の意味や関数を使って値を求めることについては5.0ポイント上回っている。</p> <p>●式からグラフをかくことについて苦手とする生徒が多い。</p> | <p>・表、式、グラフは表現の違いであり、根本的には1つの関数であることを気づかせるような授業を展開する。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率が県の正答率を3.3ポイント下回っている。</p> <p>○相対度数の意味や活用方法については市の平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>●度数折れ線から傾向を読み、説明することができていない。</p> | <p>・各用語の定義だけでなく、意味や使いどころを学べるような演習に取り組ませる。</p> |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | エネルギー | 58.1 | 60.3 | 57.4 |
| | 粒子 | 53.2 | 53.8 | 50.7 |
| | 生命 | 68.2 | 71.2 | 67.8 |
| | 地球 | 32.5 | 35.3 | 33.8 |
| 観点 | 知識・技能 | 57.6 | 59.9 | 57.0 |
| | 思考・判断・表現 | 50.5 | 52.4 | 49.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 37.9 | 43.3 | 39.8 |



★指導の工夫と改善

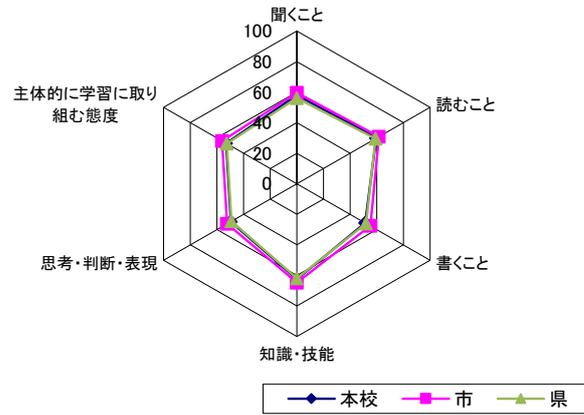
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|--|
| エネルギー | <p>○光の性質については、よく理解がなされており、全ての設問において県の正答率を上回っていた。</p> <p>●力の性質については、力の作用点がどこになるのか理解できていない生徒があり、県の正答率を12.4ポイント下回った。</p> | <p>・力の三要素について再度確認し、力を矢印で表すときには、作用点の位置を確認しながら記入させるようにする。</p> |
| 粒子 | <p>○金属の性質をよく理解しており、県の正答率を10.7ポイント上回った。</p> <p>○石灰水にうすい塩酸を入れると二酸化炭素を発生することをよく理解しており、県の正答率を17.1ポイント上回っている。</p> <p>●水とエタノールの混合物を加熱すると、エタノールだけでなく少量の水も気体となって出てくることを理解できていない生徒があり、県の正答率を8.1ポイント下回った。</p> | <p>・探究的な学習を進める際には、考察やまとめをより一層充実させながら、基礎的・基本的な知識や理論をしっかりと理解させていく。</p> |
| 生命 | <p>○植物の分類については、分類の基準をよく理解しており、県の正答率を9.9ポイント上回っている。</p> <p>●用具や器具の正しい使い方を理解していない生徒が多く、使い方の手順の理解が県の正答率を下回っている。</p> | <p>・用具や器具を実際に使う際には、正しい使い方を確認しながら、使用させるようにする。</p> |
| 地球 | <p>○示相化石の意味をよく理解しており、県の正答率を12.7ポイント上回っている。</p> <p>○地層の特徴から、地層が堆積した当時の河口からの距離の変化を分析することができる。</p> <p>●地震によって発生するP波とS波の関連性についての理解が不十分であり、県の正答率を13.3ポイント下回っている。</p> | <p>・モデル実験や動画などを上手に活用しながら、地震のゆれのしくみについてイメージしやすいように、工夫していく。</p> |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 聞くこと | 58.0 | 59.6 | 56.1 |
| | 読むこと | 59.6 | 61.6 | 59.1 |
| | 書くこと | 51.2 | 55.2 | 51.9 |
| 観点 | 知識・技能 | 62.5 | 64.7 | 61.9 |
| | 思考・判断・表現 | 49.6 | 52.4 | 49.1 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 53.0 | 56.1 | 52.5 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|--|
| 聞くこと | <p>この領域は県の正答率を1.9ポイント上回っているが、市の正答率を1.6ポイント下回っている。</p> <p>○絵を適切に表している英文の聞き取りでは、すべての問題で県の正答率を上回っているか、同程度である。特に、数の聞き取りに関する問題は7.8ポイント上回る。</p> <p>○英文を聞き取り、たずねられたことに自分の考えを答えることの問題では、県の正答率を1.4ポイント上回る。</p> <p>●英文の概要を聞き取る問題では、いずれも県の正答率よりも3.1から7.9ポイント下回る。</p> | <p>・様々なパターンの会話練習を通して、自由な会話を聞き取り、理解する力を向上させる。</p> |
| 読むこと | <p>この領域は県の正答率を0.5ポイント上回っているが、市の正答率を2.0ポイント下回っている。</p> <p>○英文や対話文の情報を正しく読み取ることや、英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことはできている。</p> <p>●代名詞の所有格の問題では、県の正答率を9.4ポイント下回っている。</p> <p>●英文と情報・条件をもとに、適切なものを選ぶ問題では、県の正答率よりも7.9ポイント下回っている。</p> | <p>・長文読解の際の指示語や代名詞に注目させ、前後のつながりから指示語や代名詞の表すものが理解できるようにする。</p> <p>・様々なジャンルの長文を数多く読ませることで、読解力をつけさせる。</p> |
| 書くこと | <p>この領域は県の正答率0.7ポイント上回っているが、市の正答率よりも4ポイント下回っている。</p> <p>○～'s+名詞を使った並べ替え問題では、県を8.3ポイント上回る。</p> <p>○whichを使った対話文の問題では、県を8.3ポイント上回る。</p> <p>●現在進行形の否定文の問題では、県を5.1ポイント下回る。</p> <p>●三人称現在単数形の肯定文を正確に書く問題では、県を7.5ポイント下回る。</p> | <p>・様々な英作文の問題に触れさせ、文法事項を意識しながら英文を完成させるようにする。</p> |

宇都宮市立城山中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○基本的に学校から出される宿題はよく取り組んでいる。内容に関しても十分に満足し、意欲的に取り組んでいる。しかし、内容としては漢字練習、単語練習など、基礎的で簡単な内容が多く、今後は更に発展的に応用力をつける内容など精選していくようにする。

○家庭学習では予習に重点を置いている傾向があり、「家で、学校の授業の予習をしている」という設問で肯定的回答の割合は、市の平均より10.3ポイント高い。英語では宿題に次の授業の予習が出ていることが多いためだと考えられる。

○学習面では読書時間、1か月に読む本の冊数が市の平均を上回っている。今後も継続させるようにする。

○「グループでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答している生徒が多い。授業の中で話し合い活動の場を設け、発表する場を多くしてきたため、話し方や聞き方等のスキル学習に重点的に取り組んできた成果と考えられる。今後も継続し、発表のスキルも高めていくようにする。

○「自分がクラスや人の役に立っている」と考えている生徒の割合が高い。また、「自分にはよいところがある」「自分が持っている能力を十分に発揮したい」と考えている生徒も多く、自己有用感が高い。今後も継続して高めていく。

●家庭学習に関しては、計画性、時間などほとんどの項目で市の平均を下回っている。今後、更に家庭学習の質の向上を目指した指導の工夫をしていく。

●1日当たりの携帯電話やスマートフォンを使用する時間が市や県の平均よりも上回っている。読書時間は多いが家庭学習の時間が少ない原因となっているので、時間を決めて使用するなどルールを徹底させていくよう指導していく。

●授業の目標や振り返りをしっかりとできない生徒が多いので、授業に取り組む態度の改善に努めていく。

●学力結果では国語以外、市の平均を下回っているが、「自分は勉強がよくできるほうだと思う」という設問で、肯定的回答の割合が市の平均より5.5ポイント、県の平均より6.9ポイント上回っている。現状をよく理解できていない生徒が多いため、今後はできているところ、できていないところを明確にしていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-------------------------|---|---|
| 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 | 各教科で話し合い活動等(協働学習ツール活用も含む)を積極的に取り入れ、言語活動の質的向上を目指す。生徒一人一人の学びを見取りじっくりと取り組んでいくように適切に支援する。 | 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」で「はい」の回答が市の平均を8.2ポイント上回っていて、昨年より0.4ポイント上回っていた。□ |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|---------------------|--|
| 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答が市の平均より6.8ポイント、「家で学校の宿題をしている」や「家で授業の復讐をしている」の肯定的割合も市の平均を下回っていた。□ | 家庭学習の質の向上を目指した指導の工夫 | 「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させ、基礎・基本の定着を図るとともに、自主的に学ぶ意欲を高めることを継続する。 |